

# フレンドリー クリニック 21年の夏

毎年夏に、フレンドリープラザを主会場に開催されてきたクラシック音楽の集中講座「フレンドリークリニック」。この21年間を振り返り、来年にかけの思いを、主宰の松川儒さんにお聞きしました。

—— 昨年の21回目のフレンドリークリニックは、ドイツ留学のため主宰者不在で残念でした。

—— 昨年は勤務先の玉川大学の国外研修研究員として1年間ドイツへ滞在していました。私の個人的研究テーマの一つであるドイツの作曲家ヴォルフの歌曲研究を主として、ドイツ歌曲の演奏法をドイツはもとよりヨーロッパ中を巡って研究しました。

—— クリニックには参加できませんでしたが、長年いっしょに継続してもらったすばらしい講師チームにクリニック21年目をリードしていただきました。

—— 新型コロナウイルスの感染拡大のため、3月帰国後のハイディ・ヴォルフ（オペラ歌手）さんのコンサート、そして毎年8月に開催していたクリニックも中止となりましたが、いまだ



▲ 2019年フレンドリークリニック修了コンサート

—— たいへんな出来事もあったとか。

—— 大事件もありました。受講生たちがへロへロに疲れて合宿所に戻ってきて、風呂当番の用意したお風呂に入ろうと思えば、しかし湯気が異常に熱い。ふと設定温度をみたら50度だったとか。「殺す気か！」その学生は生まれて初めてお風呂を沸かしたそうです（笑）

—— その後は、音楽や器楽のコース、合唱講座とピアノに限らず中身が増えています。このねらいはなんだったのですか？

—— ピアノレッスンは基本的に普段から教える側も教わる側も一人です。しかしピアノという楽器はアンサンブルに必要な最も重要な楽器ですので、合宿スタート時から、一人だけでなく人と協調して造り上げる音楽から、音楽全体を見通す経験をしてほしいと願っていました。そして、音楽やクラリネットなど他の器楽の分野でもやはりアンサンブルとしての学びができること。自分の直接の先生以外の違う分野の講師からコメントをもらうことは貴重です。それができるのは普段とは違った解放された環境が必要だと思っていました。

—— 受講生はこれまで162名を数えます。中には10年以上も参加した方もいます。彼らにとってクリニックの魅力は？

—— 食べ物です（笑）。それと町民の人柄、夏の緑一面の田んぼ。特にレッスン会場として当初からお世話になっている「ライブスペースJam」の片倉さんとご夫妻。受講生はみんなJamパパ、Jamママと呼ばせていただいています。なかにはJamパパに人生相談をして道が開けた、という者もいます。音楽はその次ぐくらいと思います。これは講師陣も共通の回答かも？

—— 期間中はアウトリーチ活動として川西町内の学校や幼稚園でスクールコンサートを開催しています。これはどんな効果が？

—— まず、自分たちの習熟度を測る最高の機会です。受講

なお気持ちですか？

—— 今年は気持ちを新たにしようと思っていたのですが、とても残念です。しかし人命第一です。今は我慢の時と切り替えています。

—— 2018年にはフレンドリークラシック20周年記念コンサートも開催。クリニックが20年以上も続くとは想像していましたが？

—— スタート時は個人的な生徒さんとのピアノレッスンの避暑版という感じで、いわゆる夏の音楽合宿の体で3泊でした。その時から、誰だか知らん女の子たちが町中で自転車を乗り回してると、町民の間で話題になったと聞きました。結局20年も乗り回すことになるとは全く想像できませんでした。

—— 第1回目は1999年、ピアノコースだけでスタート。空き家を借りての合宿でした。

—— 受講生の大半は首都圏から来ますので滞在費を安くするために、数年は空き家で雑魚寝でした。生活習慣のそれぞれ違う学生たちが朝食買い出しと調理、洗濯、掃除、風呂当番など音楽以外の共同生活を10日間にわたってやりました。練習やレッスン、コンサートのクリニック期間中に経験したことは、後日、本人たちには貴重な経験だったと聞いています。



▲ グルーベッスン

—— コンサートを造り披露することは一番の励みになります。その成果は児童や生徒さんたちの素直な表情や様子で手にとるようにわかります。時には緊張による失敗こそ大事な経験です。反省会では「演奏はよくてもトークができない」といった悩みもしばしば聞きます。その生の舞台での我々の熱意で音楽のすばらしさが子どもたちに伝わったら幸いです。人といっしょに何か造りたいと感じてくれたら最大の喜びです。

—— 音楽、器楽の講師のみならずすばらしい演奏家ばかり。講師陣はどのような感想をお持ちですか？

—— 毎年、川西訪問を楽しみにしていただいています。毎年の習慣になつている講師の方も多いです。しかし、このクリニックでは最終日に修了コンサートで受講生との共演があるので、期間中は受講生に交じって必死に練習しています。「暗譜がなかなかたいへん」などの不安も。終わったあとの反省会では酒が進みます（笑）。

—— 合唱講座には町民をはじめ地元の方が毎年参加し、



1999年から21年連続で開催されてきましたが、今年は新型コロナウイルス蔓延のためやむなく中止となりました。

まなぶ  
松川 儒  
(クリニック主宰者/ピアノ)

川西町フレンドリークリニック代表。東京藝術大学附属音楽高校を経て、東京藝術大学音楽学部ピアノ科を卒業。その後、ドイツ・シュトゥットガルト国立音楽大学大学院を経て、ドイツ・カールスルーエ国立音楽大学大学院リート科を修了。藝大在学中より活動開始し帰国後は国内外はもとより客船の国際航路にも乗船し演奏活動を広げている。ソロ・ピアニストとして、又、室内楽・声楽伴奏で貴重なアンサンブルピアニストとして信頼が厚く、今日まで佐藤光政、岡村喬生、釜洞祐子、天羽明恵、腰越満美、各氏ら歌手をはじめとしてS.ペザリー(FI)、和谷泰夫(Harm)各氏など多くの著名演奏家との共演を続け、また音楽分野を越えて各種アーティストとのコラボレーションでも幅広く展開中。宮本亜門氏演出のオペラにおいては音楽助手・副指揮者として参加する。国内外で数種のテレビ収録、ラジオまたCD等の録音がある。第11回シューマン国際コンクール公式ピアニスト(ドイツ/ツヴィッカウ) 2003年より足掛け5年に渡った世界初の試み「ヴォルフ歌曲全曲演奏会・全12回」では企画者&ピアニストとして全シリーズを担当し、その功績で平成19年度文化庁芸術祭・音楽部門【大賞】を受賞。2009年より(川西町ふるさと交流大使)現在、玉川大学芸術学部准教授・洗足学園音楽大学非常勤講師・愛知県立芸術大学非常勤講師。

## 2019年の フレンドリークリニック講師陣



神谷美穂 (バイオリン)

桐朋学園大、ハノーファー国立音楽演劇大を首席で卒業。仙台フィルハーモニー管弦楽団、千葉交響楽団、横浜シンフォニエッタのコンサートマスター。宮城学院女子大学特命教授。



エマニュエル・ジラール (チェロ)

パリ・ソルボンヌ大学で美術史、フランス国立東洋言語大学で日本語、パリ国立音楽院でチェロを学ぶ。桐朋学園大特認教授としてチェロ、室内楽を指導。国際古楽コンクール審査員。



井坂恵 (声楽・メソソプラノ)

武蔵野音大大学院、ドイツカールスルーエ音楽大卒。二期会オペラ公演をはじめ、新日本フィル、東京フィル定期公演等数多く出演。宮城学院女子大准教授、国立音大非常勤講師。



市川和彦 (声楽・テノール)

東京藝術大学卒業。文化庁芸術家在外派遣研修員でミラノで研修。日中国交正常化30周年記念、小澤征爾指揮「蝶々夫人」に出演。藤原歌劇団団員。玉川大芸術学部非常勤講師。



青山 貴 (声楽・バリトン)

東京芸大大学院修了。二期会マスタークラス、新国立劇場オペラ研修所修了。東京二期会、新国立劇場、日生劇場等でのオペラ公演に数多く出演。第19回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。